

平成29年度 山村活性化支援交付金事業実施評価書

1. 事業名 平成29年度山村活性化支援交付金事業

2. 事業実施主体名 東陽地域山村活性化協議会

3. 事業概要

・事業目的

豊富な地域資源の活用を進め、まだまだ元気な高齢者が働ける仕事の創出や、多様な品目栽培と年間を通じた加工品製造に取り組む。特産のしょうが栽培に加え、これらの複合経営により雇用や所得を確保することにより、農業所得の安定化を図り、地域の活性化に繋げる。

・事業費・交付額(単位:円) 事業費 9,534,032円 交付額 9,534,032円

・事業実施期間 平成29年4月3日 ~ 平成30年3月29日

4. 実績評価

(1) 目標の達成状況等の総合的評価

平成29年度の事業については、この事業で発足した6つの部会(炭焼き部会・きのこ栽培部会・やまめ養殖部会・イノシカクラフト部会・特産物加工部会・都市との交流部会)と菜摘館集配達事業に取り組むこととなっていたが、着実に実行されていた。

(2) 取組状況

本年度は本部会議を中心に「炭焼き部会」「やまめ養殖部会」「イノシカクラフト部会」「きのこ栽培部会」「特産物加工部会」の5つの専門部会に集中し活動をされている。

(3) 事業実績

- ・町民へ向けた協議会の周知と合意形成のためのワークショップ開催(計2回)
- ・開発商品のブランディング及びマーケティング戦略検討
- ・ブランドロゴ、デザイン、PR活動時のユニフォーム製作
- ・「東陽夏祭り」「東陽しょうが祭り」にて開発商品の販売実証(計4回)
- ・「くまもと県南フードバレーフェスタ」にて販売実証及びPR活動(計2回)
- ・東京・大阪にて開発商品の販売実証及びPR活動(計5回)
- ・養殖場整備・やまめ養殖実証、養殖場での釣堀体験実施
- ・地元小中学校にてやまめの塩焼きを給食へ提供
- ・炭窯を製作・木炭、竹炭を製作
- ・市内の飲食店へ木炭のPR活動
- ・生姜の葉の抗菌作用について成分分析実施
- ・加工所を開設、生姜等地元特産物を使用した新商品開発
- ・菌床椎茸・きくらげを栽培、販売
- ・小学生に原木椎茸のコマ打ち体験実施
- ・シカ革クラフト講習会実施(月2回)
- ・シカ革・角を利用した工芸品試作
- ・菜摘館集配事業開始

(4) 実施体制

本部会議を中心に各種専門部会を設け、また連携機関として熊本県立大学、フードバレーアグリビジネスセンター、県、JA、氷川漁協とも十分連携されていた。

(5) その他事項

特になし

5. 事業実施結果

・目標達成状況

指標	1年目 (H27)	2年目 (H28)	事業目標 達成年度 (H29)	実績値 (H29)	達成率
(所得や雇用に関する指標)					
新規雇用人数(人)	0	4	10	12	120%
新規事業に伴う所得の向上(千円)	0	1454	1000	2,167	217%
加工品開発数(種類数)	0	9	20	21	105%

(計測方法)各部会それぞれの事業実績書で確認。

・所見 八代市立東陽中学校校長 徳田 雅人 東陽小学校評議委員 平木 恵子 氏

・6つの部会(炭焼き部会・きのこ栽培部会・やまめ養殖部会・イノシカクラフト部会・特産物加工部会・都市との交流部会)による地域資源を活用した様々な取り組みについては評価できる。  
 特に炭焼き部会・きのこ栽培部会・やまめ部会については、今後も自主的活動が継続できる状況にあることは、本事業の目的に合った取り組みができたということであり、部会活動の更なる発展を期待する。  
 イノシカクラフト部会については着眼点が目新しく、都市との交流部会は東陽地域の今後の在り方に繋がる活動である。直ぐに雇用や所得を生み出すことは難しいと思うが、活動継続のための行政側の事務的・人的支援をお願いしたい。  
 ・直売所「菜摘館」と連携した集配事業は、高齢者(生産者)の生きがいくくりにも通ずる取り組みであり、日用品の配達にも繋げるなど、今後の事業展開に期待したい。